

## 施策の構成

基本理念の実現を目指して、計画期間及び計画区域において推進する施策を次のように構成します。

### ①先導的な主要プロジェクト

複数の施策をまとめて一体で実施するプロジェクト型の取組であり、先行プロジェクト（2年以内に着手）、展開プロジェクト（先行プロジェクトの効果を検証して展開）及び、ニュータウンプロモーションで構成します。

### ②課題に応じた主要な施策

高蔵寺ニュータウンの諸課題に対応するために推進する主要な施策として、5つの施策で構成します。

### ③新たな課題への対応

「リニア中央新幹線開通後」、「新型コロナウイルス感染症後」の今後考慮すべき新たな課題に対する検討の方向性を提示します。

## 目標と成果指標

### ●人口・世帯の目標

項目	基準値 2020年4月1日	目標値	
		2025年	2030年
人口	43,631人	43,000人	46,000人
子育て世帯（18歳未満の子どもがいる世帯）の割合	16.8%	19%	22%

### ●成果指標

分野	成果指標	基準値	目標値 2030年度
住宅流通	戸建住宅の空き家率	2.8% (2020年度)	2.8%以下
交通	公共交通の人口カバー率	76.7% (2019年度)	85%
地域包括ケア	要介護等認定率	15.2% (2020年度)	23.5%以下
既存資産（ストック）の活用	長寿化対策を実施した公園数【累計】	15公園 (2019年度)	25公園
広域連携	高蔵寺駅の1日平均乗降客数	51,935人 (2019年度)	52,000人
情報発信	高蔵寺ニュータウン公式サイトSNSのフォロワー数	0人 (2020年度)	10,000人

## 課題に応じた主要な施策

施策	実現を目指す生活のイメージ
住宅・土地の流通促進と良好な環境の保全・創造	子育て世帯等の若い世代が、よりニーズにあった中古住宅や土地が購入しやすくなり、高蔵寺ニュータウンを居住地として選ぶようになる。静かでゆったりとした住環境が整っている場所では、地域の住民の希望により、質の高い暮らしを維持し続けることができる。
身近な買い物環境の整備と多様な移動手段の確保	歩いていくことができる場所に新しい店ができたり、移動販売車が来ることで気軽に買い物をしたり、サービスを受けたり、近所の友達とおしゃべりをしたりすることができる。遠くへ買い物等に出かけたい時に、少し歩けば公共交通が利用できる。
多世代の共生・交流と子育て・医療・福祉の安心の向上	若い世代から老後を過ごす世代まで、多様な住民がともに暮らすまちになる。住民が得意なことを活かして、子育て、生活のサポート、介護等を互いに協力し合うまちになる。多くの人の目で見守ることにより、子どもや高齢者の問題にいち早く気づき、問題が大きくなることを防ぐことができる。
既存資産（ストック）の有効活用による多様な活動の促進	住宅、道路、公園等を新しく造るのではなく、これまでに造られた既存財産（ストック）を直したり、きれいにしたりしながら、みんなで使える場所を数多く生みだして、いきいきとした活動があちこちで行われるようになる。
高蔵寺ニュータウンを超えた広域的なまちづくりの推進	高蔵寺ニュータウン周辺の住民も利用しなくなる店舗や施設が充実することで、質の高い商品やサービスが提供され続ける。高蔵寺ニュータウンを中心に名古屋市の東方エリアが住まいのブランドとして認識され、多くの人々が高蔵寺ニュータウンに質の高い住まいを求めて移り住むようになる。

## 新たな課題への対応

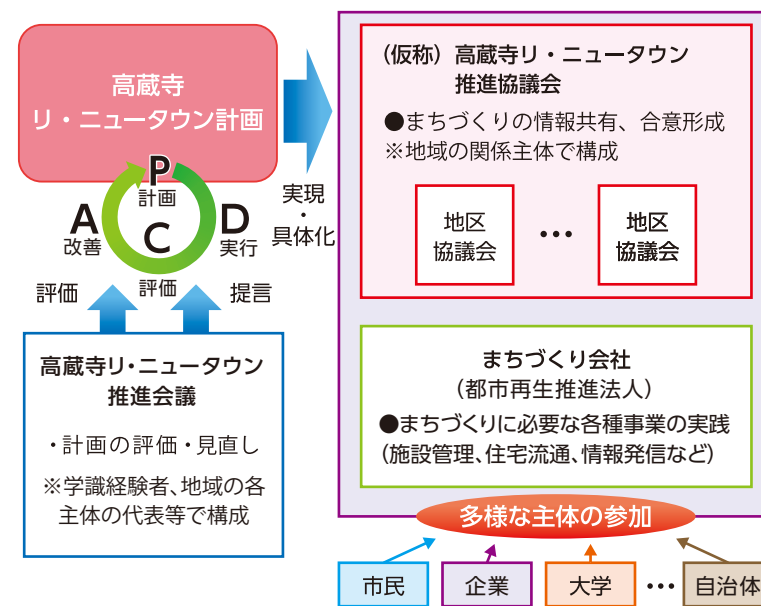
リニア中央新幹線開通後のニュータウンに向けて

- ・新たなライフスタイル・ビジネススタイルにあった住宅やサービスを提供できる環境整備
- ・首都圏等からの移住を受け入れるための情報発信の充実

新型コロナウイルス感染症後のニュータウンに向けて

- ・大都市郊外・地方への分散の受け皿となる環境整備
- ・オフィスの駅周辺やセンター地区への誘導
- ・空き家を活用したテレワークの普及に対応するSOHO住宅やワーキングスペースの提供

## 計画の推進体制



春日井市まちづくり推進部ニュータウン創生課

〒486-8686 春日井市烏居松町 5-44 電話：0568-85-6048

E-mail：nt-sosei@city.kasugai.lg.jp

# 高蔵寺 リ・ニュータウン 計画 2021-2030

概要版

高蔵寺ニュータウンの未来を創造するプラン

令和3年3月  
春日井市

## はじめに

2016年(平成28年)に策定した高蔵寺リ・ニュータウン計画は、策定から5年が経過し、グルッポふじとう(多世代交流拠点施設)の整備や高蔵寺まちづくり株式会社の設立など、計画に基づき実現された施策がある中、新たに生じた課題への対応を含め、さらなる施策の充実を図る必要が生じています。

そのため、2021年度(令和3年度)を初年度として、次の10年間を見通す計画へ改定を行いました。



〈グルッポふじとう〉  
旧藤山台東小学校施設をリノベーションした、図書館、児童館、コミュニティカフェ等を有する多世代交流拠点施設

## リ・ニュータウン

高蔵寺ニュータウンのまちづくりは、計画的に整備されたニュータウンの成熟した資産(ストック)を活かしつつ、更新(リノベーション)を重ねながら、新たな若い世代への居住の魅力と全ての住民への安らぎを提供し続けるために、「ほっとできるふるさとでありながら、新たな価値を提供し続ける“まち”であり続けること」(リ・ニュータウン)を目指します。



## 7つの基本理念



# 取組みを加速するためのプロジェクト



### Main Project 主要プロジェクト

#### 団地再生によるモデル住宅地づくり： 高森台スマートウェルネスの整備

子育て世代、高齢者等の多様な居住者が安心して健康な生活を長く続けられるようになる。自宅に住み続けたい人、より利便性を求める人を始めとした、多様な居住ニーズが満たされる。

### Main Project 主要プロジェクト

#### 旧小学校施設の活用による生活利便施設誘致： 西のサブセンター整備

生活利便施設の立地により、高蔵寺ニュータウンの住民が利便性の高い暮らしを送ることができ、新たな居住者を呼び込むことにもつながる。災害時の避難所、投票所機能などを兼ね備え、地域と調和した新たな複合機能を創造する。



旧西藤山台小  
サブ交通拠点

### Main Project 主要プロジェクト

#### ニュータウン・プロモーション

高蔵寺ニュータウンの最新情報や魅力が常に発信されており、高蔵寺ニュータウン外でもまちの情報を知ることが出来る。  
高蔵寺ニュータウンのまち全体が価値のある財産として認識されるとともに、住まいに関する情報が集積し、発信されるまちとなる。



### Main Project 主要プロジェクト

#### 戸建て住宅エリアのストック活用の促進

戸建て住宅エリアにおいて、歩いていける範囲で、生活に必要なサービスを受けることができ、多世代が交流できる場が創出され、居住の安心が確保されるとともに、住宅地としての価値が向上する。

サブ交通拠点

### Main Project 主要プロジェクト

#### センター地区の商業空間の魅力向上と 公共サービスの充実

商業施設から東部市民センターまでのセンター地区全体を歩いて楽しむことができるようになる。高蔵寺ニュータウンや周辺地区からセンター地区への公共交通によるアクセスがしやすくなる。「まなびと交流のセンター」を始めとした他地区へのアクセスも一層便利になる。



### Main Project 主要プロジェクト

#### 交通拠点をつなぐ快適移動ネットワークの構築

JR高蔵寺駅とセンター地区間の移動が円滑になるとともに、域内循環バス(サンマルシェ循環バス)、広域基幹バス、新たに運行するデマンド交通との乗り換えが円滑になる。交通拠点の周辺ににぎわいが生まれる。



### Main Project 主要プロジェクト

#### ニュータウンの顔づくり：高蔵寺ゲートウェイの整備

駅利用者が駅周辺の空間にとどまり、にぎわいを創出し、高蔵寺ニュータウンや周辺の住民も楽しみや利便性を享受できる。バスの利便性向上と自動車によるアクセスのしやすさを同時に実現する。



：計画区域

日本住宅公団春日井都市計画高蔵寺土地区画整理事業区域に加え、高蔵寺駅周辺への効果を考え、高蔵寺町北2丁目及び北4丁目並びに白山町1丁目の全域とする。